



[編集部レポート]

「IT重説」を どう生かすか?



[特別企画] 創設15周年。JREIT、さらなる発展への課題



vol.27



盲導犬の育成支援や、 森林保全への寄付を継続中。 社員の提案で「100円倶楽部」も

(株)大興ネクスタ (東京都練馬区)

東京都練馬区を中心に分譲、売買仲介、賃貸仲介・管理等を手掛ける創業41年目の(株)大興ネクスタ(代表取締役:今井榮一氏)は、長きにわたり営業活動を続けてこられたことに感謝し、社会貢献活動に注力。アイメイト(盲導犬)育成支援や、森林保全活動「トトロの森」への寄付を続けている。

コーヒー 1杯10円も 「塵も積もれば山となる」

「社会貢献により地域の発展を目指したい」という思いを持つ今井社長は、10年ほど前、同じエリア内で(公財)アイメイト協会が行なっている盲導犬の育成、視覚障害者の自立支援活動に賛同。寄付を始めたのが、会社としての社会貢献活動の始まりだ。

寄付金の原資となるのは、福利厚生の一環として駐車場に設置している自動販売機の売上金。原価や電気代等の経費を差し引いた利益と、社内のコーヒーマーカーを利用する際に支払うこととしている1杯10円の代金、これらに会社からの別途寄付金も加えて寄付している。



社員や職人などが利用する自動販売機。売り上げから得た利益を寄付している

「1年間に寄付できる金額はそれほど多くありませんが、『塵も積もれば山となる』の精神で取り組んでいます」(吉田氏)。



(株)大興ネクスタ
管理部主任
吉田 智氏

また、人が住まう「住空間」を提供する企業として、環境負荷の低減にも努めており、その一環として「トトロのふるさと基金」への寄付も始めた。

同団体は取得した緑地を「トトロの森」(埼玉県所沢市)と名付け、雑木林として維持管理している。「住宅に携わる仕事をしているからには、何らかの形で森林保全に関わりたかった」という同社長の思いから、8年にわたり寄付活動を続けている。

寄付金は、社員の毎月の給与、賞与から100円を天引きする「100円倶楽部」で集めている。社員からのアイデアを採用したものだ。

「われわれの力は微々たるものかもしれませんが、続けることに意義があると思っています。少しでも地域社会の発展に貢献できるよう、これからもコツコツと活動を続けていきます」(同氏)。